
僕と彼女の視界

yoichi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕と彼女の視界

【Nコード】

N4363C

【作者名】

y o i c h i

【あらすじ】

「僕」と「彼女」とのちょっと不思議なラブストーリーです。

鏡に向かうと、改めて自分のカッコヨサに感心する。

今日も完璧なまでにキマッている。

いつまでも眺めていたいが今はそうもいかない。

少しだけ緊張して彼女が待つテーブルへ戻る。

彼女に会うのは何回目だろうか。

優しさや女性らしさ、そして知的さを兼ね備えたその姿は、いくら同じ時間を共にしても飽きることはない。

お互いを見つめ合い時間は過ぎていった。

店を出て、車へ乗り込む。

運転の為に前方を見なければならぬのがどうしてもなく歯がゆい。

彼女はどんな表情をしているのだろうか。

僕を見ているのだろうか・・・。

ようやくドライブも終わり静かな部屋の中へ。

心おきなく見つめ合っていると、次第にお互いの感情が昂っていく。

徐々に近づく彼女との距離。

50cm・・・。

30cm・・・。

10cm。。

いよいよ、という場面でいきなり彼女が視界から消えた。

次の瞬間には目の前に壁があった。

かろうじて視界に入ったワイングラスには、男女が口づけをしている様子が映りこんでいる。

またか・・・。

僕の主人はキスをする時に僕を外す。

彼女の主人もキスする時に彼女を外す。

今夜もこんな形でおあずけをくらうのかとあきらめた時、何かの拍子で僕の置かれたテーブルが動いて視界が変わった。

ベッドの棚につつましく置かれた彼女を見つけることができた。

彼女もまた僕を見つめている。

僕のフレームが音をたてた。

彼女のレンズが潤んでいるように見えた。

今日も触れ合うことはできなかったけど、しばらくの間見つめ合うことができた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4363c/>

僕と彼女の視界

2010年10月17日02時02分発行